

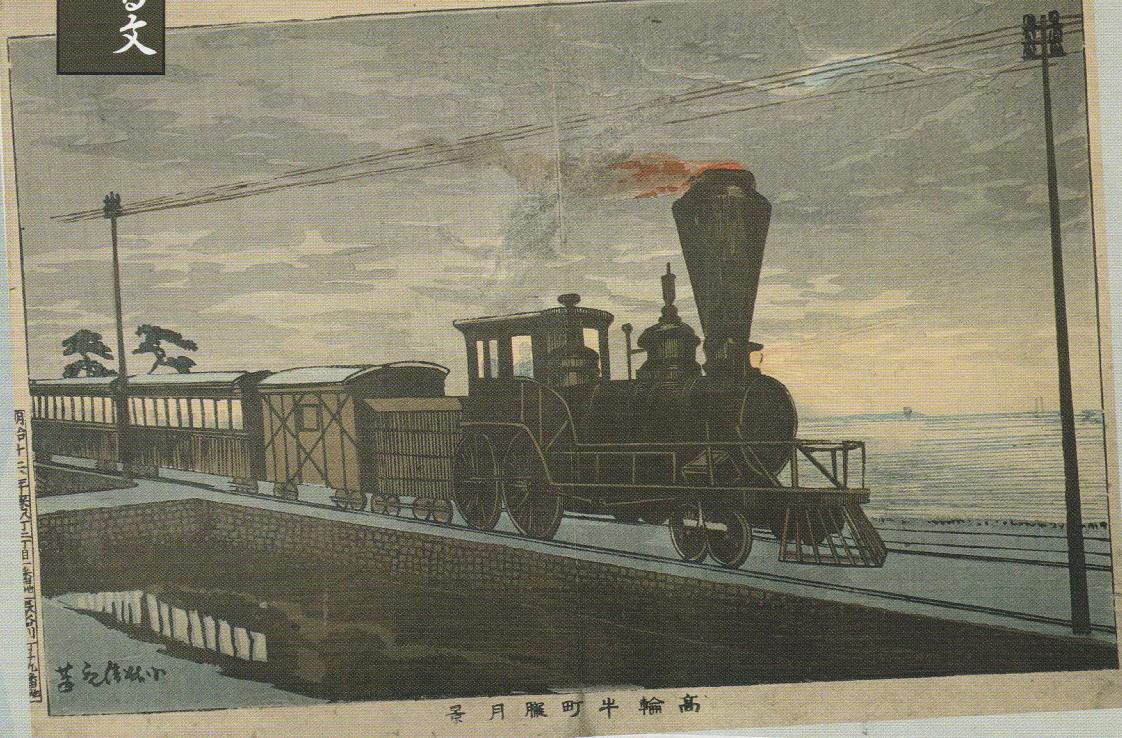
ふるさと文化館ニュース

Newsletter of Nerima Shakujii Koen Furusato Museum

もうど
ねり美・ふる文
コラボ企画

浮世絵で行こ!

幕末明治の
暮らし、娯楽、事件...



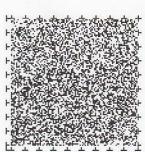
左 小林清親
「高輪牛町輪月景」 明治12(1879)年
練馬区立美術館蔵



観覧無料

令和8年

1月25日(日) ▶ 3月8日(日)



会期: 令和8年1月25日(日)~3月8日(日)
会場: 石神井公園ふるさと文化館 2階 企画展示室
観覧料: 無料

ふるさと文化館(以下、ふる文)と練馬区立美術館(以下、ねり美)はいずれも区立のミュージアムですが、それぞれの収蔵品や展覧会の性格の違いから、これまで、共同企画を開催することはありませんでした。そこで、この度、“浮世絵”という、それが共に所蔵する資料(美術館で言えば作品)で初のコラボ展示が実現します。

ふる文では上石神井村の名主で、代々この地域の名士であった栗原家に伝わった幕末の浮世絵130点余を収蔵しています。役者絵や美人画、風景画、戯画など江戸の様子を垣間見る多彩な作品群で、これに加え、練馬にかかわる浮世絵資料も併せて収蔵されています。

一方、ねり美は平成27(2015)年に「没後100年 小林清親展—文明開化の光と影を見つめて」を開催。その時に紹介できなかった作品を中心に令和3(2021)年「収蔵作品による 小林清親【増補】—サブリメント—」を開催しました。2つの展示をきっかけに明治期の浮世絵作品が美術館に集まってきたました。

ふる文収蔵の浮世絵を見ていくと、江戸時代に人々はどのように暮らし、どんな娯楽や出来事に一喜一憂していたかがわかります。最大のエンタメであった歌舞伎芝居、その役者たちは憧れのスターで、役者絵は今まで言う“推し”的グッズと言えますし、災害・事件の伝達や政権批判のメディアとしても浮世絵はその役割を果たしました。江戸の人たちの営みは決して遠いものではなく、私たちと一緒に地続きであることがわかります。

一方、ねり美収蔵の浮世絵はもっと私たちの暮らしに近い、近代化した東京の様子を見せてくれます。小林清親(1847~1915)は古来よりの浮世絵の技法を用いながら、これまでとは違う、光と影、季節や天候、空気感を表現する、水彩画のような東京名所図を発表しました。鉄道や電線が走り、洋館が点在する新しい時代の幕開けを斬新な手法で描きました。

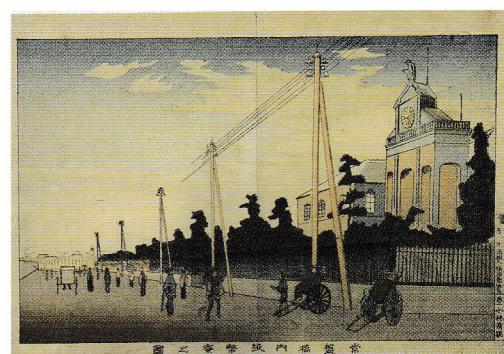
両館合わせて約80点の浮世絵で幕末明治の江戸・東京へと誘います。

今年は「べらぼう」人気で各地の美術館・博物館は浮世絵展で大賑わいでした。1月、年を越してもまだまだ浮世絵で行きましょう!

(練馬区立美術館学芸員 加藤陽介)



歌川国芳
「大願成就有ヶ瀧縞 金太郎 鯉つかみ」
弘化2(1845)年頃



小林清親 「常盤橋内紙幣寮之図」
明治13(1880)年 練馬区立美術館蔵

関連イベント

学芸員によるギャラリートーク

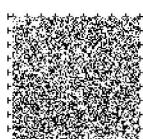
日時 2月8日(日)、2月25日(水)、各回14時~(30分程度) **参加費** 無料
会場 石神井公園ふるさと文化館 2階 企画展示室(直接会場にお集まりください)

講演会 浮世絵にみる歌舞伎役者—プロマイドとしての魅力—

日時 2月22日(日) 14時~15時30分 **参加費** 無料
申込 事前申込制 **定員** 60名
講師 藤澤 茜(神奈川大学国際日本学部准教授)
会場 石神井公園ふるさと文化館 1階 多目的会議室

ワークショップ「木版摺でうちわを作ろう」

内容 伝統工芸品、丸亀うちわに浮世絵と同じ技法で木版多色摺をほどこしていきます。
日時 3月1日(日) 14時~16時 **参加費** 1,500円
申込 事前申込制
講師 高橋 由貴子(高橋工房)
定員 20名
会場 石神井公園ふるさと文化館 1階 会議室2



詳しくは、本展チラシ、
美術館ホームページをご覧ください

「遊べる浮世絵」の紹介

練馬区立石神井公園ふるさと文化館所蔵の浮世絵から、遊べる浮世絵を2作品紹介します。

1作品目は、歌川国芳の作で「人をばかにした人だ」です。絵の人物が何をしているかというと、顎を突き出しておでこに貼った紙を息で飛ばす遊びをしています。しかし、よく見ると複数の裸体の人が複雑に組み合わさって顔になっています。初めてみると驚いてしまうことでしょう。これは「嵌め絵」「寄せ絵」と呼ばれている技法で、国芳は4作品を世に出しました。本作品の左上には、「人の心はさまざまなものだ、いろいろくろふ(苦労)して、よふよふ(やつと)人一にんまへ(一人前)になつた」と記されています。絵の説明とも人生訓とも解釈ができる内容です。

もう1作品は、歌川貞景の「五子十童図」です。「此図は古今に無圖にて子供五人の頭にて四方より見れば十人に成也」と説明があります。中国の清朝時代に盛んに行われた民間版画の年画の影響を受けたもので、子供がつながって子孫が繁栄していくことを示しています。見方により、5つの頭で10人の身体が見えるものです。

企画展では、このような遊べる浮世絵をはじめ、様々なジャンルの浮世絵から、隠されたメッセージや楽しみ方を紹介します。（学芸員 小宮佐知子）



歌川国芳「人をばかにした人だ」
弘化4(1847)年頃



歌川貞景「五子十童図」
天保年間(1830~44)

第13回ねりま手工芸公募展

令和7年8月31日(日)から9月6日(土)にかけて、当館企画展示室において、第13回ねりま手工芸公募展が開催され、応募のあったさまざまなジャンルの作品の中から、75点が展示されました。各賞の受賞者を紹介します。

練馬区長賞

羽田野建一 作「制多迦童子像」

石神井公園ふるさと文化館館長賞

高橋 静子 作「内田家」

練馬区手工芸作家連盟会長賞

石崎 理恵 作「夏(新聞紙を使って)」 井関 彩 作「まぼろしのラーメン屋台」

練馬区長賞



優秀賞

大神田 博 作「愛すべき“BUHI”3匹」

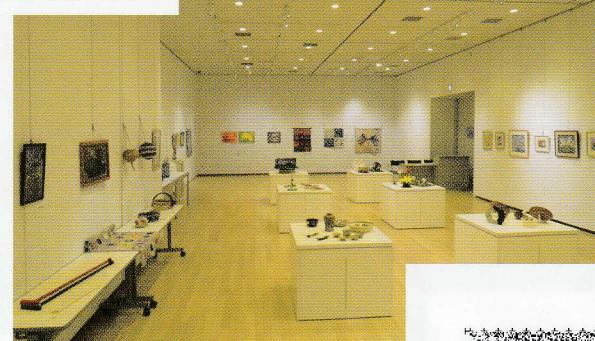
金渕 智子 作「練馬大根」

木谷 雅子 作「leaves」

佐々木仁美 作「wave」

下田 陽子 作「12星座のモラ」

徳永 千尋 作「つまんで作る革のワンちゃん大集合！！」



次回の手工芸公募展は、令和8年6月ごろに作品を募集し、9月ごろに展覧会を開催する予定です。是非ご出品ください。

主催 ねりま手工芸公募展実行委員会(練馬区手工芸作家連盟・練馬区伝統工芸会・公益財団法人練馬区文化振興協会・練馬区)

